



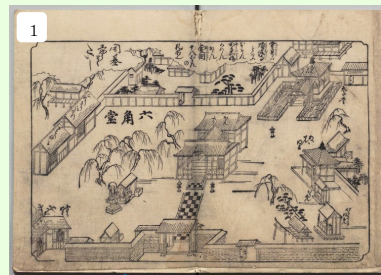
所蔵資料紹介 ～図書と準貴重書から～

11月になり、旧七夕会がもうすぐですね。図書館だより22号で紹介しました準貴重書の『都林泉名勝図会』(みやこりんせんめいしょうずえ)(寛政11(1799)年)には、室内に飾られた立花と鑑賞する人々が描かれていました。今回はそれよりも時代を遡り、元禄17・宝永元(1704)年刊行の『花洛細見図』(からくさいけんず)に描かれた七夕会を紹介します。

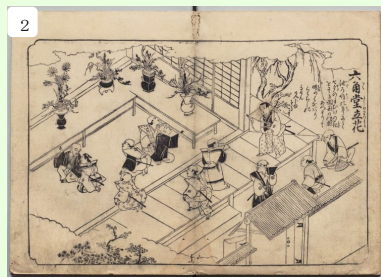
「花洛」とは花の都京都のことであり、京都の社寺仏閣や花の名所、年中行事などがイラスト付きで紹介されたガイドブックです。江戸時代の『る○ぶ』や『こと○つぶ』ですね。旅行が大衆化された江戸時代、人気の観光地である京都本はたくさんの種類が出版され、ベストセラーになっていました。また、ガイドブックとしてだけでなく、旅行に行けない人々が家に居ながらにして旅行をしている気分させてくれる読み物としても楽しまれてきました。観光名所だけでなく、そこに暮らす人々が生き生きと描かれているところも人気の一つだったのではないのでしょうか。

さて、『花洛細見図』十二之巻には六角堂(図1)の図と七夕会(図2)の様子が掲載されています。六角堂の説明には、寺号は頂法寺、本尊は如意輪観音、西国18番の札所、開基は聖徳太子であると書かれています。次の頁の「六角堂立花」には、六角堂池坊に全国から門弟が集まり、七夕の手向けの花を挿け、それを京都の人々が群集となって見に来ていると説明されています。立花とそれを鑑賞する人々が描かれており、京都の年中行事として定着していたことがうかがえます。『都林泉名勝図会』も一緒に展示しますので、ぜひ見比べてみて下さい。

『花洛細見図』より以前は『京童』(きょうわらべ)、後には『都名所図会』(みやこめいしょうずえ)といった京都本が発行されました。中でも有名な『都名所図会』の作者・秋里籬嶋は、制作の際に『花洛細見図』を参考にしたそうです。こうした江戸時代の京都本は『新修京都叢書』等に収録されています。京都研究にぜひ活用して下さい。



六角堂境内の絵図と、上に説明が書かれています



七夕会の様子。賑わっています

展示資料

- ・『宝永花洛細見図：扁額軌範：花洛絵馬評判』(「新修京都叢書 第8巻」再版、臨川書店、1994年)
- ＊掲載画像1, 2は「宝永花洛細見図 | 国立公文書館デジタルアーカイブ <https://www.digitalarchives.go.jp/file/1225030>」より引用
- ・『都林泉名勝図会 一ノ下』秋里籬嶋、小川多左衛門、寛政11(1799)年

参考文献

- ・『1日5分いけばなの歴史』細川武稔著、淡交社、2022年
- ・『常照 54号』佛教大学図書館、2006年
- ・『江戸時代京都名所事典：古地図で辿る都の今昔』島村幸忠著；笠間書院編集部編、笠間書院、2023年
- ・花洛細見図 | 佛教大学図書館デジタルコレクション <https://bird.bukkyo-u.ac.jp/collections/titles/karakusaikenzu/>

江戸時代の古地図と現代の地図がカラーで見やすく、読んで楽しい本です

所蔵資料紹介 ～大型本から～

七夕会関連図書をもう一冊紹介します。七夕会は元々六角堂ではなく仙洞御所で行われており、寛永10(1633)年に行われた七夕会は立花だけでなく香や連句、詩歌管絃など、七夕にちなんで七種の遊びが行われました。その内容は『仙洞寛永十年七夕七遊記』に詳しく記録され、「立花事」「池坊 二真松竹」とあり、専好(二代)が松と竹の二つ真の立花をたてたことがわかります。松と竹を平行してたてると、牽牛・織姫の二星への手向けとしました。池坊総務所所蔵の『立花之次第第九拾三瓶有』、陽明文庫所蔵『池房専好立花巻物』には同年同日にたてられた二つ真の花形図があり、当館所蔵の『専好立花の鑑賞：全解説重要文化財指定九十三瓶図』『池房専好立花図』で見ることができます。参考文献1には「この立花の美しさは、一口でいえば、男性的な若松と女性的な竹との調和にある」とあります。大型本の『池房専好立花図』を展示していますので、専好(二代)がたてた七夕の花をぜひご覧下さい。



展示資料

- ・『池房専好立花図 [本編]解説』講談社、1970年

参考文献

- ・1.『専好立花の鑑賞：全解説重要文化財指定九十三瓶図』池坊専永編、日本華道社、2020年
- ＊「仙洞寛永十年七夕七遊記」は「京都府立京都学・歴彩館歴史資料アーカイブ」(<https://www.archives.kyoto.jp/websearchpe/>)で閲覧できます。